22年12月7日、クーデター 計画の首謀者として逮捕され た「ハインリヒ13世」 (picture alliance /アフロ)

リアで大規模な摘発が実施された。『シュピーゲル』誌は、れ、ドイツ各地のみならず、さらにオーストリア、イタないかという疑念を抱かせるのに十分な出来事であった。主義国であるはずのドイツが実際には意外ともろいのでは主義国であるはずのドイツが実際には意外ともろいのではビュルガーを中心としたクーデター計画は、安定した民主ビュルガーを中心としたクーデター計画は、安定した民主

# イツ社会の理想と現実ソーデター計画の底流と

**深片谷**東京大学教授

治経済・入門」『地域統合とグローバル秩序』など。書に『現代ドイツの外交と政治』、編著書に『ド東京大学准教授を経て二〇二五年より現職。著専門はEU研究、ドイツ政治。琉球大学講師、東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。東京大学大学院総合文化研究科博士課程退学。

の裁判官、連邦軍の退役軍人、元警察官など政治・社会をの大きであったことと、関わった者の中には元連邦議会議員の内容がクーデターで政権を奪取するという突拍子もないの内容がクーデターで政権を奪取するという突拍子もないの内容がクーデターで政権を奪取するという突拍子もないの内容がクーデターで政権を奪取するという突拍子もないの大きであったことと、関わった者の中には元連邦議会議員ことであったことと、関わった者の根拠の一斉捜索での裁判官、連邦軍の退役軍人、元警察官など政治・社会を対テロではドイツの警察の歴史で最大規模の一斉捜索での裁判官、連邦軍の退役軍人、元警察官など政治・社会を

いたのだ。

いたのだ。

はってドイツの政治を奪取しようと着実に準備を進めてではなく、社会の根幹にある軍や法の専門家が、武力行使ではなく、社会の根幹にある軍や法の専門家が、武力行使によってドイツの政治を奪取しようと着実に事業のといたのだ。

明されていくであろう。
明されていくであろう。
明されていくであろう。
明されていくであろう。
明されていくであろう。

の変容との関連はどうなっているのか検討していきたい。不満や、かつて安定していて盤石と考えられていたドイツ政治のコンセンサスが次第に浸食されてきた背景を検討する。ロシアによるウクライナ侵攻という重大な危機の中で、国際秩序のあり方を展望する際にドイツの役割に期待されるところは非常に大きい。今後のドイツ政治を考えるとき、今回ところは非常に大きい。今後のドイツ政治を考えるとき、今回ところは非常に大きい。今後のドイツ政治を考えられていたドイツのライヒスビュルガー事件は妄想にとりつかれておかしくなってしまった人々の問題であって、その背景にある社会的以下では事件そのものではなく、その背景にある社会的以下では事件そのものではなく、その背景にある社会的以下では事件とのものではなく、その背景にある社会的

### 「ライヒスビュルガー」とは何者か

を構成していたわけではない。ライヒスビュルガーとよば イツ帝国の復活を目指して集会やデモを行ってきた。 で国家のサービスを享受しながら普通の市民生活を送って めず、現在の政府の統治の正統性を否定している。 して建国された現在のドイツ連邦共和国とその法秩序を認 スビュルガーたちは、その後一九四九年に基本法を憲法と ル共和国が成立したことによって消滅しているが、ライヒ である。ドイツ帝国は第一次世界大戦の敗北後、ワイマー だと自分で思い込めば、ライヒスビュルガーになれるから 統一後にできたドイツ帝国(ライヒ)の市民(ビュルガー) するものが「帝国市民」であり、一九世紀の最初のドイツ すれば誰でもなれる。それは、ライヒスビュルガーが意味 まな集団があるが、ライヒスビュルガーはある意味、自称 ガーは確固とした組織ではない。ドイツの極右にはさまざ れる人々が中心になっていたとされるが、ライヒスビュル いる者がほとんどである。一部では組織集団を構成し、 とはいえ、ライヒスビュルガーたちは今のドイツの社会 クーデター計画を企んだ人々は、 強い統制の取れた組織

民主主義を否定し、君主制の復活を求め、戦争の結果と

して生まれた国際秩序と合意を否定する極右思想は現在のして生まれた国際秩序と合意を否定する極右思想は現在のい。このような極右勢力の存在自体はどこの国でも異様ない。このような極右勢力の存在自体はどこの国でも異様ならないほどの勢力に拡大したことが問題である。戦後のドらないほどの勢力に拡大したことが問題である。戦後のドらないほどの勢力に拡大したことが問題である。戦後のドらかさな運動としてくすぶっていたライヒスビュルガー運とも評されてきた。それにもかかわらず、四〇年以上前から小さな運動としてくすぶっていたライヒスビュルガー運とも評されてきた。それにもかかわらず、四〇年以上前から小さな運動としてくすぶっていたライヒスビュルガー運とも評されてきた。それにもかかわらず、四〇年以上前から小さな運動としてくすぶっていたライヒスビュルガー運りは、およそ過去一〇年のうちにその活動が次第に過激化し目立つようになってきた。

り、その約五%の約一二五〇人が極右と位置付けられていり、その約五%の約一二五〇人が極右と位置付けられていはナチより前のドイツ帝国旗などを用いて、ナショナリズはナチより前のドイツ帝国旗などを用いて、ナショナリズはオチより前のドイツ帝国旗などを用いて、ナショナリズはオチより前のドイツではカーになが、ライヒスビュルガードイツではナチを賞賛したり、そのシンボルを用いたり

喝、脅迫、強要などの犯罪は一○一一件(うち暴力事件は を妨げられたが、この事件によってライヒスビュ かった。帝国旗を掲げた暴徒は警官によって建物への突入 たが、群衆が突入を試みるということは想定されていな 件が多発するようになって入館時のチェックは厳重になっ かわらず改築によって開放的な設計になっている。テロ べきとの発想から、戦前の古い石造りの建物であるにもか な広場となっている。議事堂は市民に開かれた議会である 約四○○名が防護柵を突破して議事堂への突入を試みると 陰謀論者がベルリンのドイツ連邦議会議事堂前に集結し、 的とされている。二一年にはライヒスビュルガーによる恐 る。また、約二一〇〇人が脅迫や暴言の実績などから暴力 いう事件も発生した。議事堂前は誰でも自由に入れる大き 一八四件)で、一九年の五九九件から大きく増加している。 二〇年八月にはライヒスビュルガーやその他さまざまな ル

前から、次第に陰謀論に染まったと報道されている。もっ失って政治に不満を持つハインリヒ一三世は、三〇年ほどつらなるハインリヒ一三世が注目された。祖先の土地をチューリンゲン州で続いた貴族である、ロイス家の家系に今回の事件の逮捕者の中でも首謀者として、中世以来

どの勢力が伸張していることが強く認識された。

すためのものであるが、AfDのように右翼的政治志向で

族世界への問題の広がりはない。一三世との関係をずっと以前に絶っていたので、広い元貴ともロイス本家は陰謀論に染まってしまったハインリヒ

きなリスクになることは明らかである。 戦のプロが多数の武器をとって深く関与すれば、非常に大誘拐、政権を奪取するという荒唐無稽な計画でも、特殊作誘拐、政権を奪取するという荒唐無稽な計画でも、特殊作が関与していたことにより、連邦議会を襲撃し、政治家をおりである。テロ対策部隊でもある特殊部隊の元兵士

この制度は、政治という不安定な活動への市民の参加を促り、任期後には復職できるというドイツ独特の制度による。度や公務員は連邦議会議員を務め、その後ベルリンの裁判所に裁判官としてリン州の裁判官に就任し、二〇一三年のAfD設立期に入わっていたことである。ヴィンケマンがクーデター計画に関議会議員を務め、その後ベルリンの裁判所に裁判官としてり、任期後には復職できるというドイツ独特の制度による。首や公務員は連邦議会議員を務めている間は休職扱いとなり、任期後には復職できるというドイツ独特の制度による。首や公務員は連邦議会議員を務めている間は休職扱いとなら、任期後には復職できるというドイツ独特の制度による。

議員以外のAfD関係者とライヒスビュルガーの近さを懸知られる政党の議員となった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の議員ととった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の議員ととった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の議員ととった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の議員ととった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の議員となった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の議員となった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の議員となった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の議員となった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の議員となった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の議員となった場合、裁判官が復職して職務知られる政党の法といい。

## AfDとライヒスビュルガーの「思想的一致」

念する声も大きい。

同盟(CSU)と社会民主党(SPD)、自由民主党(Fでも、外から見れば非常に安定しているように見える。メルケル首相は二〇〇五年から二一年までの一六年にわたった権を維持できたし、比較的に短期で終わってしまったで政権を維持できたし、比較的に短期で終わってしまったで政権を維持できたし、比較的に短期で終わってしまったでが権を維持できたし、比較的に短期で終わってしまったが推し、と社会民主党(SPD)、自由民主党(F

メルケル政権期のCDU/CSUとFDPかCDU/CSみ合わせ、つまりシュレーダー政権期のSPDと緑の党、は一つのまとまりと考えると、政権は常に二つの政党の組DP)、緑の党の四つの勢力だけである。CDUとCSU

UとSPDという組み合わせしかない。

懐疑主義を出発点として一三年に結党され、その後当初の 交・安全保障政策を考えると、地方はともかく、国レベル S P D は、これまでに政権を担当したことのあるCDU/CSU 基本政策について幅広いコンセンサスを共有しているの た。連邦議会に議席を持つ勢力は、現在では六つとなって 反ユーロを核とした経済政策中心の勢力を追い出し、 の政権には参画できない。また、AfDは反ユーロ・EU 約機構(NATO)を軸とする安全保障政策に反対し、外 ツの社会主義統一党(SED)の流れを汲む勢力と、シュ いるが、政権を担当した経験を持ち、戦後のドイツ政治の 出したことにより、二一年の連邦議会選挙後、 してSPDを離党したグループの融合である。北大西洋条 レーダー政権期の経済構造改革である労働市場改革に反対 Dと緑の党とFDPの三政党によるショルツ政権が誕生し 二〇〇五年に左派党、その後一七年にAfDが議会に進 緑の党、FDPの四党である。左派党は旧東ドイ 初めて SP — 石

> カー 義、 とライヒスビュルガーがオーバーラップしていると考える ようになった。 ドイツに影響を与えているし、コロナ禍ではクヴェアデン れる現代ではアメリカに端を発する陰謀論者のQアノンも に基づいて活動を大きくしてきた。SNSで情報が拡散さ 相互に共振し合って社会にたまった不満を利用して陰謀論 取すべきだと考える勢力は他にもいくつか存在してい の政党を批判し、政権を担当してきた諸政党から政治を奪 化したりしてドイツ中心主義と移民排斥を訴え、同時に他 のは自然であろう。ナチの過去を美化したり、犯罪を矮小 ないものの、考え方が一致する部分は多く、 年の難民危機を経てさらに右翼色を強めてきた。 ライヒスビュルガーとAfDには組織的な直接の コロナは風邪にすぎないなどと主張する勢力も目立つ (常識や同調圧力に逆らう人々)という反ワクチン主 独自のエコーチェンバー内で政権がコロナ A f D 関係は . る

### 多党制化の進展と寛容な社会の変容

禍を利用して市民の権利を抑圧していると主張する者が、

さまざまな勢力を構成している

しい行動制限の導入により見せつけた。科学的・合理的なコロナ禍は国家が市民の日常生活に介入することを、厳

判断に基づけば、社会集団全体の厚生のために制限を受けれることはやむを得ないものであるが、日頃から社会的入れることはやむを得る人々に、正しい政策の理解や歴史心理的優位と満足を得る人々に、正しい政策の理解や歴史の解釈を求めることは難しい。そして、マクロな経済政策の解釈を求めることは難しい。そして、マクロな経済政策の解釈を求めることは難しい。

かった。

収入の低い層への手当を行った。CDU/CSUが懸念しるためSPDは最低賃金の導入を主張し、メルケル政権は不満を抱える人々は左派党に向かった。この不満に対処す経済の構造変容から取り残され、弱者を冷遇する国家に

の取り残されたと考える人々の認識を変えるには至らなマクロで見れば経済政策は成功したと評価できるが、一部的活力を削いでしまうことにもならなかった。このため、たように最低賃金はドイツの労働コストを引き上げ、経済

さらに二〇一五年の難民危機は、ドイツ社会でくすぶっさらに二〇一五年の難民危機は、ドイツ社会でくすぶった々と議席を獲得し、ついに一七年の連邦議会選挙で国政、大々と議席を獲得し、からには一七年の連邦議会選挙で国政、大々と議席を獲得し、社会的不満を大きくした。労働力が不ていた移民・難民がドイツの社会保障を利用し、治安を、おりは移民・難民がドイツの社会保障を利用して地方議会に、大々と議席を獲得した。

せず、政敵を排除してきたことによって、政権中心部の閉できず、またメルケル首相が長期政権の間に後継者を育成るドイツでは議会の解散が非常に限られた条件の下でしかるドイツでは議会の解散が非常に限られた条件の下でしかるドイツでは議会の解散が非常に限られた条件の下でしかるドイツでは議会の解散が非常に限られた条件の下でしかるドイツでは議会の解散が非常に限られた条件の下でしかるドイツの選挙を表している。

塞感が高まっていたことも否定できない。

女権のジュニアペートトーニーで予覧と売けてここから、 SPDもシュレーダー政権の構造改革とメルケル大連立

権を構成できない状況において、大胆で新鮮な政策展開はあった。そのため、CDU/CSUもSPDも相対的に小さくなり、その代わりに気候変動政策や寛容な社会政策で支持を受けた緑の党が支持を拡大し、さらにAfDというすしい勢力がドイツの政党システムに加わった。圧倒的な大政党がなくなり、三党以上の連立でなければ安定した政策を構成できない状況において、大胆で新鮮な政策を開は、

とを象徴しているとも言えよう。

## ウクライナ危機とドイツ社会の理想と現実

二〇二二年二月二四日にロシアがウクライナに侵攻したにはかりのショルツ政権は、対ロ政策の継続を前提としてたばかりのショルツ政権は、対ロ政策の継続を前提としてより、ロシアからの新設ガスパイプライン「ノルドストリーム2」の稼働も目指していた。一一年から稼働していた「ノム2」の稼働も目指していた。一一年から稼働していた「ノム2」の稼働も目指していた。一一年から稼働していた「ノム2」の稼働も目指していた。一一年から稼働していた「ノム2」の稼働も目指していた。一年から稼働していた「ノム2」の稼働も目指していた。一年から稼働していた「ノム2」の稼働も目指していた。 前年一二月に発足したはかりの対象を表表を表表している。

の党のハーベック前共同党首が経済・気候変動相兼副首相の党のハーベック前共同党首が経済・気候変動相兼副首相に利用することは気候変動政策からして好ましくなく、まに利用することは気候変動政策からして好ましくなく、まに利用することは気候変動政策からして好ましくなく、まに利用することは気候変動政策からして好ましくなく、まに利用することは気候変動政策があるロシアの天然ガスをさらがいいとはいえ、化石燃料であるロシアの天然ガスをさらに利用する。

と現実の狭間で結局は安全保障問題への対応を理念的長期

うことになった巡り合わせは数奇である。ライナ危機後のドイツ外交とエネルギー政策の舵取りを担厳しい対ロ姿勢でも知られる緑の党を代表する二人がウクとなり、もう一人の前共同党首ベアボックが外相となった。

脆弱性を克服してきたプロセスは評価できよう。同時に、 ちに現実的に対応すること、さらにこれをドイツ一国では り、ドイツ経済の競争力を高めるものであるとの確信に基 よる気候変動への対応は、幅広い技術革新を伴うものであ 次第に高度な兵器の供与も行うようになった。化石燃料か をとったため批判されたが、NATO内の合意を踏まえて ドイツ連邦軍予算を大幅に増額した。ウクライナ支援につ し、ノルウェーなどからの輸入を増やすなど、政策変更で 火力の利用を増やし、LNG受け入れ基地を短期間で整備 ら実施していくことがショルツ政権の課題となった。石炭 なく欧州連合(EU)の連帯を前提として合意をとりなが づき、ロシアからのエネルギー輸入が途絶えたことにただ らの脱却と再生可能エネルギーによる発電と水素化などに いては従来の兵器供与原則から当初はあまりに慎重な姿勢 石炭と脱原子力のプランを柔軟に変更したことは、 侵攻後、ショルツ政権は安全保障政策を大きく転換させ、 理想

進めることは、難しくなっている。
たく、対口政策も異なる国とエネルギー・安全保障政策をハンガリーなどは、もはや価値を共有しているとは言いがUレベルのコンセンサス形成もさらに難しくなっている。目標に優先したというそしりを免れられない。さらに、E目標に優先したというそしりを免れられない。さらに、E

このような環境下で世界を騒がせたライヒスビュルガー にはG7や国連など多角主義的な国際的連帯に基づいて合にはG7や国連など多角主義的な国際的連帯に基づいて合なポジションについていながらも不満を抱き、異端的考えなポジションについていながらも不満を抱き、異端的考えなポジションについていながらも不満を抱き、異端的考えなポジションについても一層注意しなければならない。不言からの関与についても一層注意しなければならない。不言からの関与についても一層注意しなければならない。不言を解消しつつ人々を包摂する寛容さと、本当の敵には厳満を解消しつつ人々を包摂する寛容さと、本当の敵には厳満を解消しつつ人々を包摂する寛容さと、本当の敵には厳満を解消しつつ人々を包摂する寛容さと、本当の敵には厳満を解消しつつ人々を包摂する寛容さと、本当の敵には厳

史修正主義との新たな戦いに直面している。●題への対処という構造的な変化の中で、ポピュリズムと歴語への対処という構造的な変化の中で、ポピュリズムと歴活と、それに密接に関連するエネルギー確保と気候変動問させ経済的繁栄の基盤となったが、地政学的国際政治の復戦後ドイツの「戦う民主主義」は冷戦期には政治を安定